

「スズメバチとの対決 (8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



キイロスズメバチの巣内のそれぞれの「段」は、当然中心部から外側に向かって「造営」されていく。女王バチが産む卵も、中心から順に産み付けられていくわけで、中心部ほど成長が早い。中心部は膜のある「さなぎ」、その外側が「よく育った幼虫」、外側に向かうに従って、小さな幼虫という順だ。この序列は、2段目も3段目も同じだった。



段の一番外側には「卵」も見られた。孵化直後と思われる幼虫もいる。幼虫で死んでいるものは1匹もいなかった。成虫よりも、薬剤に対する耐性がずっと高いようだ。通常の昆虫は、卵からさなぎまで一気に捕獲するのは難しい。成虫の危険さえなければ、スズメバチは「完全変態の昆虫」の育ち方を、一気に観察できる、非常に優れた教材かも知れない。



幼虫は丸々と太っている。口には小さな「牙」も持っている。成虫とちがって「肉食性」で、働きバチが持ってきた獲物(肉団子)を食べて大きくなる。餌が不足すると、働きバチは一部の幼虫を犠牲にして、他の幼虫に餌として与えることもあるという。



さなぎも引っぱり出してみた。全身真っ白で、エイリアンのような。これがもう少し育ったら、猛毒を持った成虫になるところだった。巣内の幼虫・さなぎを合わせると、およそ150匹だった。放置しておいたら、地域にまき散らすところだった。



翌朝、巣のあった軒下の床を見ると、たくさんの働きバチが死んでいた。その中でもひととき大きな「女王バチ」も見つけた。駆除には成功したが、卵から成虫まで、多くの命を一瞬で奪ってしまい、何となく申し訳ないことをした・・・という気持ちになった。